

# 令和元年度 事業報告書

## I. 国際体験創造事業

---

次代を担う青少年や市民各層に対し、外国人との直接的な交流による異文化体験の機会を提供し、国際性豊かな人材を育成するとともに、本協会の他事業への参画も図ることで、松山の国際化に向けた人材の活用に努めた。

### 1. 第37回 まつやま中学生海外派遣

中学生を姉妹・友好都市へ派遣し、現地での交流や異文化体験を通じて、未来を担う青少年の国際感覚を養い、国際性豊かな人材の育成に努めた。

#### (1) 応募・選考

1年間の国際交流事業への参加実績に応じてポイントを付与し、翌年度の派遣事業への応募資格とする「中学生チャレンジプロジェクト」を実施。派遣前に松山で活動できる国際交流事業に参加し、その意義を学び、楽しさを体感することで、派遣後も引き続き地域の国際交流に貢献できる人材の育成を目指した。

4ポイント以上の参加により、応募資格を獲得した生徒は126人。面接審査により、3年生16人、2年生16人、合計32人（13校）を選考した。

#### (2) 事前研修及び結団式・壮行会

事前研修：3回開催

結団式・壮行会：7月7日 10:00～11:15

#### (3) 派遣

##### ①アメリカ班

期間：7月24日～8月2日 10日間

訪問先：サクラメント、ロサンゼルスほか

派遣団：中学生 16人（男子8人、女子8人）

団長 高田 誠（道後中学校 校長）

引率教師 高田 真奈実（久米中学校 教諭）

〃 河野 圭美（愛媛大学教育学部附属中学校 教諭）

協会職員 田中 早苗

活動内容：【サクラメント】

- ・州議事堂、市庁舎等の見学
- ・旧市街、鉄道博物館見学
- ・コロマ地区での砂金採取体験
- ・サター岩見学
- ・現地姉妹都市協会との交流会
- ・ホームステイ ほか

【ロサンゼルスほか】

- ・サンディエゴ動物園、ミッドウェイ航空母艦博物館見学
- ・UCLAキャンパスライフの体験
- ・カリフォルニアサイエンスセンター、全米日系人博物館見学  
ほか

## ②ドイツ班

期 間：7月20日～7月29日 10日間

訪 問 先：フライブルク、ベルリンほか

派 遣 団：中 学 生 16人（男子6人、女子10人）

団 長 齊藤 昭二（南第二中学校 校長）

引率教師 平石 由美子（北条北中学校 教諭）

〃 大西 規靖（愛光中学・高等学校 教諭）

協会職員 向井 かおり

活動内容：【フライブルク】

- ・エコステーションでの環境学習
- ・ドイツ語学校授業体験
- ・石畳マイスターによるモザイクのワークショップ
- ・ゲーテ・ギムナジウム訪問
- ・ホームステイ、ホストファミリーとの交流会 ほか

【ベルリンほか】

- ・プラスチックゴミ削減への取り組み見学
- ・ベルリンの壁記録センター、DDRミュージアム見学
- ・ベルリン動物園見学
- ・ポツダム サンスーシ宮殿見学 ほか

## （4）報告会

日 時：8月17日 13:30～15:30

会 場：コムズ5階 大会議室

内 容：米独両班による報告

令和元年度チャレンジプロジェクト登録生徒44人が参加

## （5）報告書の発行

報 告 書：A3・10頁 1, 400部（市内中学校全クラスへ枚数を配布）

## （6）令和元年度チャレンジプロジェクト

- ・市内全中学校への案内文書の発送やメールニュース・ホームページへの掲載等で広報し、4月21日に説明会を開催。広報まつやま等も活用し、登録生徒を募集。
- ・中学生に相応しい国際交流・体験活動を随時実施。29事業に延べ590人が参加。118人が令和2年度派遣への応募資格となる4ポイント以上を獲得した。

## 2. 大学生海外派遣事業

姉妹・友好都市の同世代との交流を通して、それぞれの国の現状を知り、将来の友好交流の基礎となる絆を作ることを目的に、松山市内の大学生を友好都市・平澤市へ派遣する事業で、5月から募集を開始。作文と面接による選考で派遣学生を決定し、7月には事前研修も実施したが、8月になり平澤市側より受入れ中止の連絡があり、止む無く派遣を中止することとなった。

### （1）応募・選考

松山市内の各大学を通して、また協会ホームページでの広報により募集。

5大学から23名の応募者があり、作文・面接による選考で女子学生10名・男子学生2名の計12名を選抜。

## (2) 事前研修

日 時：7月28日 10:00～17:00

内 容：事業概要説明、韓国の基本情報、韓国語研修、危機管理など

## (3) 派遣 (未実施)

期 間：8月25日～8月30日 (6日間)

### 3. 姉妹・友好都市からの青少年受入れ交流

姉妹・友好都市からの青少年を受け入れ、日本文化の体験やホームステイ等、松山の青少年との交流機会を創出し、国際理解と友好親善を図った。

#### (1) フライブルク市青少年受入交流

フライブルク市のゲーテ・ギムナジウム (中高一貫校) の訪問団を受け入れ、日本文化体験や学校訪問等の交流事業を実施した。この訪問団は、まつやま中学生海外派遣・ドイツ班の中学生が、フライブルク市訪問の際パートナーとなり交流した生徒を中心に構成されており、ホームステイ受け入れなどを通して、さらなる交流を行った。

期 間：10月22日～10月27日 6日間

参 加 者：生徒20人・引率教諭2人

交流内容：松山城、道後温泉、坂の上の雲ミュージアム 見学

防災センターで体験学習

松山東高等学校訪問 授業や部活動に参加交流

しまなみ海道ツアー (来島海峡観潮船・平山郁夫美術館)

カメラファミリー (中学生派遣経験者の会) との交流会

ホームステイ

ほか

### 4. 地球人まつり

通算23回目となる「地球人まつり in まつやま・えひめ」を、E P I Cとの共催により開催。外国人と日本人と一緒に世界の国を紹介するブースを企画・出展することで、外国の歴史や文化に親しみながら市民とふれあう機会を提供し、身近な国際交流の促進を図った。

また、各ブースのボランティアスタッフとして幅広い年代層の市民が参画し、外国人市民との交流や相互理解の場を作り出すことができた。

・日 時：1月19日 13:00～17:00

・場 所：松山市総合コミュニティセンター 企画展示ホール1～3F

・出 展：世界各国ブース 13ブース

フードブース 13ブース

民族衣装試着コーナー

パフォーマンス出演 12グループ

・ボランティア数：外国人市民30人・市民ボランティア105人

・来 場 者：約1,600人

・そ の 他：2階、3階に愛媛県国際交流協会が主催する県内国際交流団体の活動紹介ブース (25団体) が出展

## 5. フライブルク市寄贈ぶどう活用

フライブルク市から寄贈され、松山市野外活動センター内の「フライブルク友好ぶどう園」において、市が栽培しているぶどう（品種名：ソラリス）の収穫に合わせ、外国人市民と日本人市民が参加するイベントを実施し、交流の機会を提供した。また、収穫した果実を松山市内の団体（福祉事業所、NPO団体など）へ寄贈し、ジュースやジャムなどに加工して、活用してもらった。イベントや寄贈を通してフライブルク市との姉妹都市交流について、広く周知することができた。

### ○ぶどう活用イベント

日時：8月7日、参加者：日本人21人 外国人14人

内容：野外活動センター内ブドウ園で収穫体験

コムズ調理室で日本料理を食べながら交流

### ○寄贈先 就労移行支援所など3団体

・ジャム・ジュレ・シロップなどに加工

### ○製造品 ・ぶどう飴 600袋（10個入り）

## II. 共生支援事業

外国人も「同じ地域で生活する住民である」ということを認識し、住民生活に必要な支援を行った。また、外国人の地域行事への参加を促し、地域への溶け込みを図るとともに、市民や地域の国際理解を深め、多文化共生の推進に努めた。

### 1. 外国語としての日本語教室

外国人市民が日常の生活に必要なコミュニケーションを日本語で行えるよう、レベル別に分けて基礎講座を開催した。また、来日間もない外国人住民を対象とした「今すぐ日本語～くらしの情報広場～」も開催。授業を通じて、松山の生活に必要な情報も提供した。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、3月の講座実施は中止した。

講座名	曜日	時間	年間回数 (回)	登録者数(人)		
				前期	後期	
平日	初級Ⅰ	火曜	13:00～14:30	29	28	18
	初級Ⅱ	木曜	13:00～14:30	28	27	16
	初級Ⅲ	木曜	14:45～16:15	28	14	6
夕方	初級Ⅰ	火曜	18:30～20:00	29	14	22
	初級Ⅱ	火曜	18:30～20:00	29	16	25
週末	今すぐ日本語	原則土曜	13:30～15:30	20	16	15

○託児サポート：子どもを持つ外国人市民も受講できるよう託児サポートを実施。

・利用者：前期2人（子ども2人）、後期はなし

- 「今すぐ日本語」では、外国人オタスケマン登録者にサポーターとして参加してもらい、生活情報提供等を行ったほか、フィールドワークも実施。

## 2. 留学生支援団体助成

外国人留学生を中心とした外国人市民の生活をサポートするため、生活必需品の提供活動を行う民間団体に対し、助成を行った。

団 体 名	事 業 内 容	助成金額 (総事業費)
シリキリヤ サポート クラブ	市民に呼び掛け、まだ使える生活必需品や余剰品を集め、留学生に提供する活動を実施。年間で280回を超える収集や提供を行った。主な提供品は洗濯機や冷蔵庫・電子レンジなどの家電用品、机、棚など。 主な経費：倉庫使用料、車借上げ料、ガソリン代など	300,000 円 (685,239 円)

## 3. 外国人のための無料行政書士相談

愛媛県行政書士会・松山支部との連携により、まつやま国際交流センター会議室を会場に毎月一回無料の行政書士相談を実施し、外国人市民の行政手続きや契約等に関する相談に応えた。

- ・開 催 日 : 毎月1回(原則第2水曜日)
- ・時 間 : 13:30~15:30の間 一人30分程度
- ・場 所 : コムズ4階 国際交流会議室
- ・相 談 件 数 : 6件
- ・主な相談内容 : 在留資格・ビジネスに関する事など

## 4. 国際交流サロン

外国人市民との交流の中で、市民が世界の様々な文化・生活習慣・価値観等を学び、国際交流へ参加するきっかけとして「国際交流サロン」を開催した。

	月 日	内 容	参加者 数 (人)
1	4月13日	<b>【チャットでチョットおいしい3大陸カフェ】</b> イタリア、ケニア、マレーシア出身の3名のゲストにそれぞれの国の“食”について紹介してもらい、おしゃべりを楽しんだ。	31
2	6月8日	<b>【エチオピアサロン</b> <b>“モボコルウェディセブ(人類の起源)”</b> エチオピア出身の講師によるエチオピア紹介のほか、エチオピアのゲームや伝統的なダンスを体験。エチオピアに関する理解を深めた。	25
3	8月7日	<b>【摘んで 食べて 夏フェスタ】</b> 市民と外国人市民がぶどう‘ソラリス’の収穫体験を行い交流を楽しんだ。 (フライブルク市寄贈ぶどう活用事業として実施)	35
4	10月18日	<b>【外国語 de おしゃべり(英語編)】</b> 外国人ゲストを招き、英語のみでのおしゃべりを楽しんだ。	25

5	11月24日	<b>【結婚・家族のカタチ in the world】</b> “結婚”や“家族”などをテーマに、6か国のゲストにそれぞれの国について話してもらい、考え方や価値観の多様性について理解を深めた。	15
6	2月16日	<b>【モザンビーク、丸ごといただきます！】</b> 《コムズフェスティバル事業として開催》 モザンビークの現状や食文化を紹介してもらい、ワークショップでは実際の調理を体験。食を通してモザンビークの魅力を発見できる機会となった	14
合 計			145

## 5. ジュニア国際交流「コスモリアン入門教室」

小・中学生を対象に、多文化共生意識の醸成やコミュニケーション能力の向上を目的とした講座を開催するなど、心に国境をもたない“コスモリアン”の育成を図った。

### (1) 国際理解教育の支援

学校からの依頼を受け、授業へ留学生らを派遣したほか、職員による職場体験を実施するなど、「国際理解教育」への支援を行った。

内 容	小 学 校	中 学 校	そ の 他
① 職場体験／出前講座	1回 (136人)	3回 (23人)	—
② 学校等への外国人派遣	4回 (10人)	3回 (13人)	—

※延べ人数、①は参加生徒数 ②は派遣した外国人数

### (2) コスモリアン教室

JICA四国・えひめグローバルネットワーク・愛媛県国際交流協会など他団体との連携により、ワークショップを開催したほか、外国人と直接交流できる機会を設け、青少年の異文化体験や国際理解に努めた。

	月 日	内 容	参加者数 (人)
1	5月26日	<b>【松山から世界を考えよう！①】</b> 《えひめグローバルネットワークとの連携》 モザンビークの現状やSDGs（持続可能な開発目標）について学んだ後、松山に住む私たちにできる活動を考えた。一人でも多くの人にモザンビークの現状を知ってもらうため、ワークショップでは募金活動のためのポスターを作製した。	34
2	6月2日	<b>【のぞいてみよう！国際協力の世界①】</b> 《JICA四国との連携》 ○元青年海外協力隊員体験談：エクアドル ○ワークショップ：「世界がもし100人の村だったら」プログラムを通して世界の人口比率や貧困度を	34

		実体験した。教育の重要性や貧困問題について考えるとともに、エクアドルや協力隊の活動にも興味を持つことができた。	
3	7月23日	<b>【南の国からアロ～ハ】</b> ≪愛媛県国際交流協会との連携≫ ハワイからのインターン生を講師に、ハワイの概要や文化について学んだ。またワークショップではハワイ語やハワイの歌に挑戦することで、よりハワイを身近に感じる事ができた。	30
4	9月8日	<b>【ゲーテーターク！ドイツ・フライブルク編】</b> 松山の姉妹都市であるフライブルク出身のゲストを招き、ドイツ・フライブルクの生活、文化の違いなどについて紹介を受けた後、ドイツ語の伝言ゲームを通して交流した。	34
5	11月10日	<b>【模擬国連】</b> 済美高校の模擬国連同好会の生徒を講師に、国連会議を模擬的に体験する模擬国連を行った。中学生向けに議題は身近なものとし、決められた時間内に自分たちの考えをまとめ、伝え、聴くという体験を通してディベートの方法を学んだ。	30
6	11月23日	<b>【What's up? アメリカ・サクラメント編】</b> 松山の姉妹都市であるサクラメント出身のゲストを招き、アメリカ・サクラメントの生活、文化の違いなどについて紹介を受けた後、英語のクイズや遊びなどを通して交流した。	30
7	1月25日	<b>【アンニョンハセヨ！ニーハオ！韓国・台湾編】</b> 松山の友好交流都市がある韓国、台湾出身のゲストを招き、それぞれの国や街について紹介してもらった後、クイズや遊びなどを通して、交流し理解を深めた。	32
8	2月24日	<b>【のぞいてみよう！国際協力の世界②】</b> ≪JICA四国との連携≫ ○元青年海外協力隊員体験談：トンガ ○ワークショップ：青年海外協力隊として「松山訓練所」に入所するという設定のもと「貿易ゲーム」を行った。貿易のしくみを疑似体験することで、不平等な条件のもとで行われる国間の経済格差を学ぶことができた。	34
9	3月1日	<b>【松山から世界を考えよう！②】</b> ≪えひめグローバルネットワークとの連携≫ スマホを題材に、コンゴ民主共和国を例に挙げ、グローバル経済の仕組みとそこから派生する社会問題、自分とのつながりについて学んだ。ワークショップではカードを使って自分たちにできること話し合い、一人一人の行動が世界と繋がっていることを意識することの大切さを学んだ。	18
合 計			276

(3) ESDコーディネーター派遣

ESD（持続可能な開発のための教育）の専門家であるNPOを学校へ派遣し、頭で理解するだけでなく実際に行動へ移す国際理解教育を支援した。

各校での活動に際しては、松山市内で国際協力を実施している団体とも連携し、学習や活動をより身近なものとして感じることができるよう工夫がなされた。

	学 校	内 容
1	北条小学校 6年生 74名 (計4回)	モザンビーク、フィリピンについて各国の現状や、松山から現地を支援している団体の活動状況を学習し、自分達にできる活動を考えた。募金活動、支援物資の準備、長縄跳びやダンスの様子を収めた交流のためのビデオ制作を行い、団体を通して現地に届けることができた。
2	清水小学校 4年生 6年生 162人 (計3回)	①4年生 愛リバーサポーター制度・大川清掃の取り組みについて紹介したほか、プラスチックゴミ問題や身近な生き物を観察することの大切さなどについて学習した。 ②6年生 ESDプログラム「ちがう国でも同じこと」を使いモザンビークと日本の暮らしや文化の違いを学習したほか、実際にモザンビーク人との交流を通して、国・地域が違って、人として助け合うことの大切さを学ぶことができた。
3	新玉小学校 1～6年生 528人 (計3回)	①3年生 松山在住のモザンビーク人にポルトガル語でのあいさつや握手の仕方、カプラナ（アフリカ伝統布）の使い方を教わったほか、太鼓やマサラ笛の体験を行い、実際にモザンビークの文化に触れ親しみを持つことができた。 ②4年生 モザンビーク出身の留学生と実際に交流し、たくさんの質問をして相手のこと、相手の国のことを知るおもしろさを感じる事ができた。 ③5年生 モザンビークで発生したサイクロン・イダイの被害状況や現状について学習した。また、2020年のオリンピック・パラリンピックの際、モザンビークのホストタウンとしての応援を考え、おもてなし応援の方法についての意見を出し合った。 ④6年生 5年生同様サイクロン・イダイの被害状況と支援の現状について紹介し、えひめグローバルネットワークが実施する募金活動についても紹介した。 ⑤全学年 モザンビークオリンピック委員会のマナベ会長とセザール事務局長が来校し交流を行った。交流会場となった体育館は、生徒たちが用意した応援旗、カプラナ布を用いたハチマキ、モザンビーク国旗で飾られ、これまでの交流の深さを示していた。
4	味生第二小学校 5年生 93人 (計3回)	フィリピンで支援活動を行う松山市内の団体代表の講師とフィリピンからの研修生とともにフィリピンの踊りやゲームを通じて交流を行ったほか、フィリピン・ロドリゲス市のサンホセ小学校5年生と、インターネットで交流を行った。



5	拓南中学校 1年生 133名 (1回)	モザンビークへ教育ボランティアとして留学した高校生も参加し、モザンビークのこと、貧富の差、生活インフラの整備状況、現地の子ども達との交流や生活など、実際に体験した話を聞き、モザンビークの現状や、松山とモザンビークのつながりについて学習した。
---	------------------------------	--

(4) 外国語（英語）de おしゃべりジュニア編

中学生とネイティブスピーカーがグループになり、遊びやゲームを英語だけでやり取りすることで、楽しみながらコミュニケーション能力の向上を図った。

なお、3月に予定されていた3回目は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止となった。

月 日	内 容	参加者数（人）
6月22日	自己紹介、質問タイム、ゲームほか	中学生 31 外国人市民 6
10月14日	チーム対抗ゲーム、体調の表現など	中学生 34 外国人市民 6
合 計		中学生 65 外国人市民 12

6. 地域交流サポート

地域や団体の協力を得て、文化行事やお祭り等の地域行事へ外国人市民の参加を促し、住民との交流の場をコーディネートすることにより、外国人市民の地域社会への溶け込みと多文化共生を図った。

(1) 地域や団体の行事への参加

	月 日	内 容	参加者数（人）
1	5月9日	<b>【二之丸薪能】</b> 松山市文化協会の招待により、外国人市民が伝統文化を鑑賞	3
2	5月11日 ～12日	<b>【二之丸大茶会】</b> 愛媛県茶道連盟松山支部の招待により、外国人市民が伝統文化を体験	6
3	10月6日	<b>【銀天街神輿パレード】</b> 銀天街第一商店街振興組合が運行する神輿パレードに外国人市民が参加し、日本の伝統行事を通して、地域住民と交流	8
合 計			17

※ その他、各種団体の協力や依頼により、様々なイベントへの招待や、参加呼びかけ、ボランティア活動・祭りなど地域行事への参加もあり。

### Ⅲ. 基盤整備事業

---

外国人市民に対する情報発信等により、その生活をサポートする。また、一緒にサポートしてもらえる人材の育成や、団体の活動活性化を図ることで、“人・物・情報をつなぐネットワークづくり”を行い、協会が地域の国際交流の“拠り所”となるよう努めた。

#### 1. 国際交流市民ボランティア入門講座

市民を対象に、入門講座と、地域で活動する国際交流団体によるガイダンスの場を設けることで市民とのマッチングを図った。また、中学生を対象に「ジュニアボランティア入門講座」を2回開催し、幅広く人材育成に努めた。

##### ○入門講座

- ・日 時：2月1日
- ・受講者数：34人
- ・内 容：第一回：「ボランティアって何だろう？～地域のプラットフォームを目指す活動～」  
まつやま子ども食堂代表 野中玲子さんによる講話。一口にボランティアと言っても、様々な形のボランティアがあること、堅苦しく考えずに、行動を起こしてみる大切さなどについての話を聞いた。

##### ○国際交流団体による活動紹介

- ・日 時：2月8日
- ・受講者数：35人
- ・内 容：市内で活動する国際交流15団体による活動紹介の後、個別に質問等のできる時間を設け、マッチングを図った。

##### ○ジュニアボランティア入門講座

- 第1回
  - ・日 時：10月20日
  - ・受講者数：中学生13人
- 第2回
  - ・日 時：12月15日
  - ・受講者数：中学生16人
- 内 容：(第1回、2回とも) アジア・アフリカの民間支援団体「アジアキッズケア」において外国人市民とともに支援物資の荷造りなどの活動を行った。

#### 2. 交流ボランティアのための語学講座

地域での交流やボランティア活動に市民の“外国語能力”を活かせるよう、語学やコミュニケーション能力のスキルアップ講座を開催した。

また、これらの受講者を含めてボランティアガイドに登録し、活動してもらうことで、市民参加の拡大に努めた。

##### (1) ボランティア語学講座

観光・文化施設の案内など、ボランティア活動に必要な実践的な語学の習得を図った。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため3月の授業の一部を中止した。

講座名		前期（４～９月）	後期（１０～３月）
ハンゲル	上級	１３回・登録者１２人	１２回・登録者１６人
中国語	上級	１３回・登録者 ９人	１１回・登録者１２人
英語	平日	１５回・登録者６０人	１３回・登録者５９人
	週末集中	６回・登録者２６人	６回・登録者２１人

- ・英語週末集中講座は、前期「子規記念博物館」・後期「松山城」が学習対象
- ・各講座とも、観光施設等において実地研修を行うフィールドワークを実施。その際外国人市民をゲストに招き、実践的な活動を行った。

## (２) ボランティアガイド活動

登録者による観光ガイドやイベント通訳等の支援を行った。

使用言語：英語、韓国語

《ボランティアガイド登録：１３７人》

	月 日	内 容	種別	派遣人数 (人)
1	4月 2日	デンマーク人 松山城観光案内	ガイド	2
2	5月 21日	カナダ人クルーズ船乗客 松山城案内	ガイド	1
3	5月 21日	クルーズ船ダイヤモンドプリンセス寄港に伴うおもてなし・案内	ガイド	24
4	6月 3日	ドイツ人芸術家 市内案内	ガイド	1
5	6月 3日	クルーズ船ダイヤモンドプリンセス寄港に伴うおもてなし・案内	ガイド	22
6	6月 26日	クウェート人・韓国人 松山城・石手寺案内	ガイド	1
7	7月 31日	カナダ人親子 お墓参りと市内案内	ガイド	1
8	10月 5日	日韓税理士サッカーチーム交流会	通訳	11
9	10月 22日	フライブルク・ゲーテギムナジウム道後案内	ガイド	3
10	10月 23日	フライブルク・ゲーテギムナジウム坂の上の雲ミュージアム案内	ガイド	3
11	10月 25日	フライブルク・ゲーテギムナジウム松山城案内	ガイド	5
12	11月 25日	和田重次郎玄孫交流会（素鷲小学校）	通訳	1
合 計				75

## 3. ホームステイ・ホームビジット振興

日本の文化や家庭生活の体験を希望する外国人とホストファミリーをマッチングし、ホームステイ・ホームビジットを行うことにより、実際のふれあい

を通して異文化交流、相互理解を図った。

《ホストファミリーバンク登録：197家庭》

○ホームステイ・ホームビジット

	期 間	受入人数 (人)	受入 家庭	内 容
1	3月29日～ 4月6日	2	3	ドイツ・フライブルクからワーキングホリデーで来日した学生
2	4月26日～ 6月26日	1	1	カナダからワーキングホリデーで来日した学生
3	5月24日～ 5月26日	21	11	愛媛大学のアメリカ人短期留学生
4	7月6日～ 7月11日	1	1	アメリカ・サクラメントからの姉妹校高校生
5	7月25日～ 7月27日	16	16	日本語スピーチコンテスト出場の高校生
6	7月25日～ 8月16日	1	3	イスラエル人旅行者
7	8月19日～ 8月20日	2	1	自転車旅行中のスペイン人夫妻
8	9月13日～ 9月15日	6	5	愛媛大学のアメリカ人短期留学生
9	11月～12月中 の1泊2日	3	3	愛媛大学の台湾人留学生
10	12月10日	2	1	(ホームビジット) 愛媛大学のロシア人短期留学生
合 計		55	45	

○My Matsuyama Family

留学生に松山を“第二の故郷”として親しんでもらえるよう、松山での家族とってもらえる家庭と引き合わせ、4か月を目安として、ホームステイに限らない自由な交流を行ってもらう「My Matsuyama Family」を実施した。

- ・交流実績：春季（6月～9月）：2カ国15人の留学生が15家庭と交流  
秋季（11月～2月）：7カ国11人の留学生が11家庭と交流
- ・登録家庭：250家庭

4. 生活サポートボランティア派遣

外国人市民からの相談に対し助言を行うとともに、必要に応じて登録制の生活サポートボランティア“オタスケマン”に同行してもらい、サポートを行った。

《オタスケマン登録者数：医療161人・日常378人》

(1) 医療同行サポート

	月 日	内 容	派遣人数 (人)
1	7月18日	赤ちゃんの予防接種同行	1

2	2月25日	内科受診同行	1
---	-------	--------	---

(2) 日常生活サポート

	月 日	内 容	派遣人数 (人)
1	4月 4日	銀行口座開設同行	2
2	5月10日～	小学生の自宅での宿題サポート	2
3	5月18日～	「今すぐ日本語」サポート及び情報提供 (前期・全10回)	13
4	7月30日	外国人の親戚との対面、市内での買い物サポート	3
5	10月12日～	「今すぐ日本語」サポート及び情報提供 (後期・9回)	4

5. 民間国際交流団体等助成・支援

(1) 姉妹・友好都市との交流助成

姉妹・友好都市との交流促進を目的として民間団体等が実施する訪問・受入事業に対し、助成金を交付し、市民主体の友好親善の促進を図った。

	月 日	事 業 内 容	助成金額 (総事業費)
1	7月25日～ 8月1日	交付先：ボーイスカウト松山地区協議会 事業名：第17回姉妹都市交流サクラメントボーイスカウト受入事業 内 容：サクラメントのスカウト9名が松山を訪れ、ホームステイやお遍路体験などを通して相互理解と友好を深めた。 主な経費：移動交通費、ホームステイ経費など	177,092円 (354,185円)
2	7月10日～ 7月17日	交付先：松山フライブルク会 事業名：姉妹都市提携30周年記念フライブルク市訪問交流事業 内 容：会員10名がフライブルク市主催の提携30周年記念行事に参加した他、独日協会・フライブルク松山会会員などと交流した。 主な経費：宿泊費、移動交通費、通訳謝礼など	200,000円 (5,312,500円)
3	7月6日～ 7月11日	交付先：サクラメント松山姉妹都市協会 事業名：ロズモント高校訪問団受入事業 内 容：サクラメント・ロズモント高校の日本語専攻の生徒及び引率11名が松山を訪問し、愛媛県立松山西中等教育学校での交流事業やホームステイを通して、多くの市民と交流した。 主な経費：交流会会食費、ホストファミリー謝礼など	87,668円 (175,336円)

4	7月6日～ 7月11日	<p>交付先：新田青雲中等教育学校          事業名：CK マックラチー高校との交流事業          内 容：姉妹校であるサクラメントのCK マックラチー高校の生徒及び引率 25 名を受け入れ、交流を通じて生徒のグローバル力を育成した。          主な経費：市内交通費、消耗品など</p>	26,750 円 (53,500 円)
5	8月6日～ 8月8日	<p>交付先：愛媛地球市民の会          事業名：第 25 回日韓市民友好交流フォーラム          内 容：平澤市民 25 名と松山の観光資源の視察や交流会などを行い、平澤市との市民レベルの草の根交流を通じ、相互理解の促進や交流人口の増加を図った。          主な経費：宿泊費、市内交通費など</p>	192,960 円 (510,920 円)
6	11月10日 ～ 11月16日	<p>交付先：愛媛大学附属高等学校          事業名：カリフォルニア州立大学サクラメント校との交流事業          内 容：引率及び生徒 9 名が同校を訪問し、授業参加などを通じ、多様な価値感を理解する機会を得た。また文化・歴史などを現地で直接学習することで、より深い国際理解が促進された。          主な経費：渡航費、通信費など</p>	200,000 円 (2,594,249 円)

(2) 後援

	月 日	事 業 名	団 体 名
1	9月29日	まつやま国際フェスティバル 2019	松山青年会議所
2	9月29日	第36回まつやま市民シンポジウム	松山青年会議所
3	10月12日	第36回マドンナ・レシテーション・コンテスト～中学生英語暗誦大会	松山東雲中学・高等学校
4	9月21日	第14回外国語教育及び研究についてのミニ学会 in Matsuyama	愛媛大学 ルードルフ・ライネルト研究室
5	10月12日	第26回カルフル杯英語弁論大会	松山大学 E.S.S. 「英語部」

## 6. 情報発信事業

### (1) 情報冊子等による情報提供

生活に必要な情報を外国人市民へ提供するとともに、市民にもホームページ・メール・SNS等での情報発信を行い、国際交流活動への参加促進、国際理解を図った。

また、英語ボランティアガイドクラスが編集した英文情報誌を月に1回発行し、各種情報を提供した。

#### ○月刊英文情報誌「What's Going On?」

毎月約500部発行（公共施設・駅・空港・大学など42か所に設置）

### (2) ホームページ・メールニュース・フェイスブックによる情報提供

イベント、講座等の情報のほか、外国人市民向けの生活情報も適宜、掲載・発信し、情報内容の充実に努めた。

#### ○メールニュース

週1回定期発信、登録数：市民 2,053件・外国人市民 912件

### (3) まつやま国際交流センター 情報コーナーの整備充実

国内外の定期刊行物や諸外国に関する図書等を収集し市民の諸外国の情勢や生活文化への理解と、外国人市民の日本社会や文化等に対する理解促進を図った。

#### ○図書貸出：90件

### (4) ラジオによる広報

松山市のラジオ・テレビ広報番組を通して、協会の事業の広報を行い、市民への周知を図った。

	月 日	告 知 内 容	番 組 名
1	10月19日	国際交流サロン案内	ラジオ広報番組 「みんなの松山」
2	1月 4日	地球人まつり2020の案内	ラジオ広報番組 「みんなの松山」
3	12月・1月	地球人まつり2020の案内	インターネットラジ オ局ホンマルラジオ
4	1月25日	国際交流市民ボランティア入門講座の案内	ラジオ広報番組 「みんなの松山」

## IV. もてなしの風土醸成事業

外国人観光客誘致による交流人口の拡大を支援し、外国人が訪れやすい“やさしい風土づくり”の促進に努めた。

### 1. レンタサイクル

海外からの誘客に向けた受入環境の整備の一助として、短期滞在外国人向けのレンタサイクルを設置し、無償で貸し出した。

- ・設置台数 8台
- ・料 金 無料
- ・貸出件数 63件

## V. 評議員会・理事会の実績等

令和元年度における評議員会・理事会の開催状況等

### 1. 評議員会の開催状況

#### ○第1回評議員会

開催日時：令和元年6月5日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター4階国際交流会議室

決議事項：平成30年度公益財団法人松山国際交流協会事業報告及び収支決算の承認

公益財団法人松山国際交流協会役員等の任期満了に伴う選任

出席者：評議員3人（欠席1人）、理事2人、監事1人（欠席1人）

#### ○第2回評議員会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会評議員の選任

出席等：決議事項について、評議員2人全員（欠員2人）の書面による同意の意思表示を得た11月27日をもって、評議員会の決議があったものとみなした。

### 2. 理事会の開催状況

#### ○第1回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：理事との取引の承認

出席等：決議事項について、理事6人全員（当事者除く）の書面による同意の意思表示、及び監事全員から書面により異議がないことの意味表示を得た4月25日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

#### ○第2回理事会

開催日時：令和元年5月17日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター4階国際交流会議室

決議事項：平成30年度公益財団法人松山国際交流協会事業報告及び収支決算の承認

公益財団法人松山国際交流協会役員等の任期満了に伴う選任

令和元年度公益財団法人松山国際交流協会定時評議員会の招集

報告事項：職務執行の状況

出席者：理事7人、監事2人

#### ○第3回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会代表理事及び業務執行理事の選定

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示、及び監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た6月5日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

#### ○第4回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会評議員の選任

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示、及び監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た11月22日をもって、理事会の決議があったものとみなした。



○第5回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会給与規程の改正

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示、及び監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た1月7日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

○第6回理事会

開催日時：令和2年3月27日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター4階国際交流会議室

決議事項：令和2年度公益財団法人松山国際交流協会事業計画及び収支予算等の承認

報告事項：職務執行の状況

出席者：理事6人（欠席2人）、監事1人（欠席1人）

3. 関連当事者との取引の内容

役職及び氏名	内 容	金 額
評議員 ルース・バージン	5月11、12日に開催した「まつやま中学生海外派遣事業」派遣生選考のための面接審査員	24,000円
理事 山下 将一	5月11、12日に開催した「まつやま中学生海外派遣事業」派遣生選考のための面接審査員	24,000円